

社会との連携

社会システム領域では「社会を変えてこそその研究」を目指し、社会に研究成果を生かしてもらうためのさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。

国際連携

温室効果ガス排出量の予測、対策や影響を評価するための統合評価モデル「AIM」の開発を通じて、国際的な研究ネットワークを発展させてきました。国際ワークショップを毎年開催しているほか、アジアの若手研究者の育成も行い、アジアの持続可能な発展に貢献しています。



地域との対話

専門的知見を広く提供するだけでなく、地域に向かい、地域と対話しながらのまちづくりに取り組んでいます。また、保育園送迎や食品ロス等をテーマとした身近な研究にも取り組んでいます。



アウトリーチ

市民向けのイベントや講演、人材育成に精力的に取り組んでいます。国立環境研究所の一般公開では子どもに研究の魅力が伝わるような発信を行っているほか、ウェビナーなども随時、開催しています。大学院等での講義やゼミの指導を行っている研究者もいます。



研究成果の公開

政策や研究に活用しやすいデータベースやツールを提供しています。

AIM（アジア太平洋統合評価モデル）

日本や世界を対象に温室効果ガス排出量の削減を評価するモデルとして開発してきたAIMの一部を公開

温室効果ガス排出シナリオに係るデータベース

世界中の数百種類以上にのぼる温室効果ガスの排出予測を整理したデータベース

家庭CO₂排出量

地図上に示された、家庭部門CO₂排出量の推計モデルによる市町村別世帯あたりCO₂排出量

日本版SSP市区町村別人口推計

気候変動研究で分野横断的に用いる社会経済シナリオとして推計した市区町村別人口のデータとマニュアル

持続可能な社会に向けた日本の状況

日本が持続可能な社会に向かって発展しているかを複数の指標でモニタリング

筑波研究学園都市の景観変化

つくば市内70地点における41年間（1980年、1991年、2006年、2021年）の景観変化

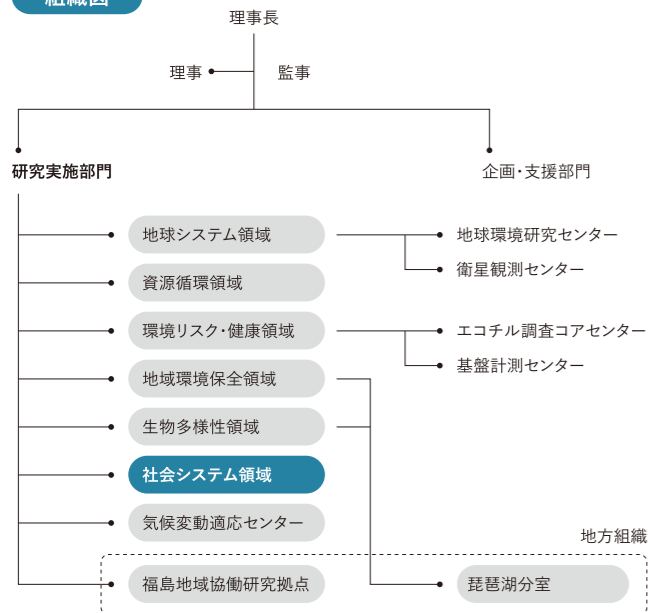
環境

社会

経済

社会システム領域の研究対象は、社会や人間行動と、環境との関係です。

組織図



アクセス



つくばエクスプレス「つくば駅」下車 → 関東鉄道バス/JRバス関東「ひたち野うしく駅」(約15分)「環境研究所」下車



ABOUT US

「環境×社会×経済」で、持続可能な未来への道すじを描く

社会システム領域の研究対象は、
社会や人間行動と、環境との関係です。

人びとが健やかに暮らせる環境が長期的に維持された社会を構築するため、
環境・社会・経済間の関連性や、それをより良いものにしていく技術、
社会構造、制度等について研究・調査をしています。

プラスチックなどの素材もエネルギーも、限りある資源です。これらを社会全体で最も有効利用できるイノベーションが必要です。リサイクル産業や工業団地の方々と一緒に、効果的な対策を研究します。

持続可能地域共創研究プログラム

世界の人口・社会経済の将来予測によって、食料・水・エネルギー・土地・鉱物資源などの利用量が変わります。気候変動やSDGsに関する地球規模の持続可能なバランスについて研究します。



地球持続性統合評価研究室



5つの研究室

環境・社会・経済の持続可能性と人々の健やかな生活を両立させるしくみやまちの姿はどのようなものか、どうやったら実現できるか、現状分析と将来推計の数値を用いつつ、その方法を研究します。



地域計画研究室

今後のさらなる気候変動を抑えるためには、世界の温室効果ガス排出量をゼロにすることはなりません。ゼロまで減らした社会(脱炭素社会)の実現に必要な政策や技術について研究します。



脱炭素対策評価研究室



経済・政策研究室

日常生活の中で環境を汚しても追加料金を求められることはありません。では課税したらいいのか、それとも人々の価値観を変える方が効果的か。人間の行動を変える政策や考え方について研究します。

脱炭素・持続社会研究プログラム

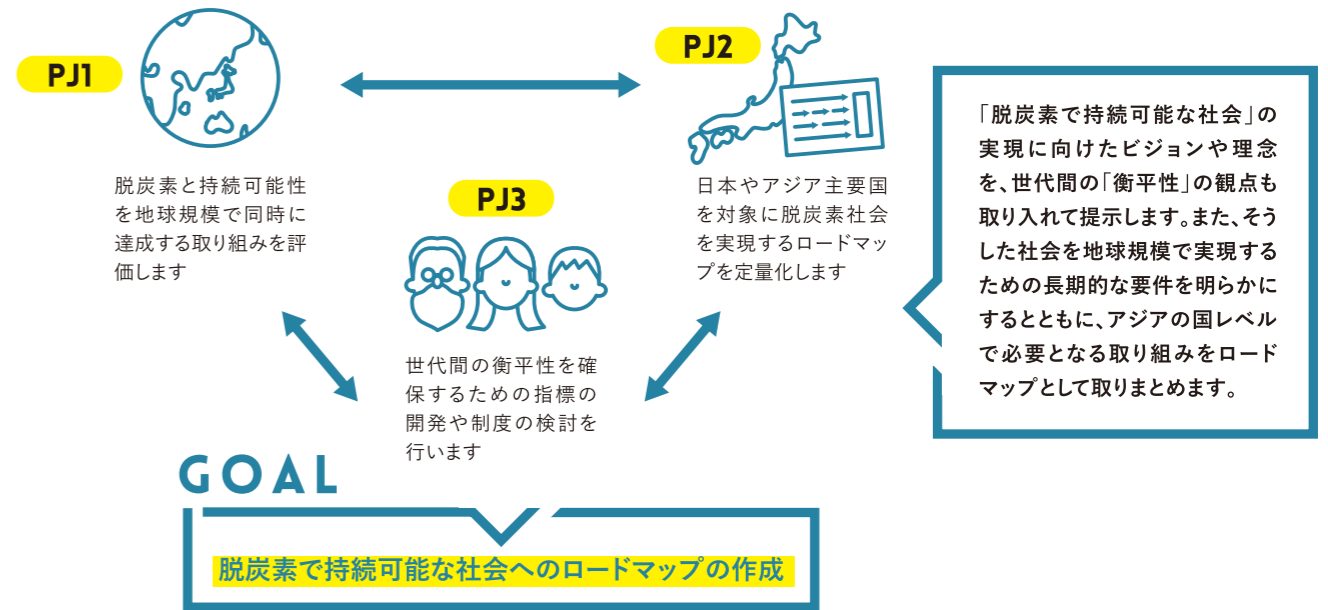
>>>> 分野横断的な研究

社会システム領域が主に取り組む
戦略的研究プログラム

戦略的研究プログラムは、近い将来の環境や社会のあるべき姿や課題を見越して、
国立環境研究所が研究分野を横断して集中的・統合的に取り組む8つのプログラムです。
社会システム領域では主に、以下のプログラムに取り組みます。

脱炭素の視点から持続可能な未来を描く

脱炭素・持続社会研究プログラム



地域に適した持続可能な将来をともに模索する

持続可能地域共創研究プログラム

